1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070702685
法人名	株式会社　プロデュース
事業所名	グループホーム　きらめき
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡西区本城東1丁目11番27号 (電　話) 093－695－3850

評価機関名	株式会社アーバン･マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4－6　北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年3月21日	評価確定日	平成20年4月26日

【情報提供票より】(平成２０年１月２８日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年8月1日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	22　人	常勤　17人，非常勤　5人，常勤換算　5．7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	3階建ての2階～3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	50,000円		その他の経費 (月額)	(水道光熱費) 10,000円
敷　　金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)		有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,500円			

(4) 利用者の概要 (1月２８日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2	名	要介護2	4	名
要介護3	9	名	要介護4	2	名
要介護5	1	名	要支援2	0	名
年齢　平均	83.4 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	手島内科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームきらめきは、近くにスーパーマーケットや商店街･大型公園･高層マンションがあり、子ども達の笑い声などが聞こえる住宅地に位置している。グループホームは3階建ての2階･3階にあり2ユニットを運営している。ホーム内は、木製の材質が多く使われ、昔の教室のような、懐かしさ･温かさ･やすらぎを感じさせる空間となっている。各居室も、窓が大きく採光が良いため、明るい空間となっている。職員は幅広い年齢層にわたり固定化しており、ヒアリングを通して、向上心やチームワークの良さを感じた。代表者は理念に基づくビジョンを明確に示し、地域行事への積極的参加を通じて親睦を深め情報発信に努めている。また職員も、それに応え、入居者一人ひとりの思いや意向の把握と実現に努めている。特に、基本情報が網羅され、生活歴の記載も詳しいフェイスシートに加え、担当者が作成する「個別処遇マニュアル」の詳細な内容･適時更新される「新たな気づき」の記載から、入居者一人ひとりのペースの尊重や思いの実現に努める職員の真摯な姿勢を感じることができる。また「生活歴」の記載を家族に依頼し、一人ひとりの思いや希望を推察し、希望にそった支援の実現に努めている点は特筆に価する。設立時からの代表者の熱い思いに、管理者の専門性に裏打ちされた経験と技術、さらに職員一人ひとりの日々の真摯な取り組みが重なり、そこに家族･地域が加わり、共に支え連携しながら、入居者の日々の暮らしを支援している。今後は、更なる展開が期待される、多くの可能性を秘めるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目：外部4)** 前回の評価では、チーム組織力のアップ･職員のモチベーションの向上･研修の実施と参加･成年後見制度についての勉強会の開催などが改善点として挙げられているが、その結果を職員全員が真摯に受けとめ、各々の課題に改善に取り組んでいる。例えば、代表者は職員の質の向上･チームワークの結束など組織づくりに、管理者は職員教育･記録の充実に取り組み、職員は研修などに積極的に参加している。その結果、グループホームの職員の役割や意識が高まっている。 **今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4)** 自己評価を行い、2ヶ月に1回の定期的な運営推進会議の開催･虐待防止関連についてミーティングの実施･地域や地域包括支援センターとの連携の強化などが改善点として挙がっている。
重点項目②	**運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4，5，6)** 運営推進会議は、自治会へグループホームのあり方の理解や入居者の家族と他の委員との相互理解を高めるなど、地域との連携を図る大きな機会となっている。同時に、地域の方々との意見交換により、グループホームがどのように見られているのかを知る機会ともなっている。また、同建物1階の店主や地域の消防団員の参加もあり、防火対策についても話し合うことができるなど、課題の解決を見出す場として活用されている。その結果、事業所と地域の連携が高まるなど効果が上がっている。
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法･運営への反映 (関連項目：外部7，8)** 毎月、担当者が入居者の状況を家族通信で報告している。また、管理者も定期的に家族へ情報を報告している。面会時には、家族に何でも言っていただけるように家族との関係を大切に話しやすい雰囲気づくりに努めている。家族から出された提案はどんな些細な事でも運営に反映できるように取り組んでいる。また、家族とコミュニケーションを図るために自宅を訪問し、終末期の家族の意向などを確認している。
重点項目④	**日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)** 近くに商店街があり、入居者と共に買い物や美容室の利用、タバコなどを買いに行っている。また、散歩で地域の方と立ち話をするなど、気軽に話ができる関係を築いている。しかし、加齢に伴い外出が少なくなった入居者もおられる。そこで地域の行事にホームから職員が参加するなど交流に努めている。現在では、地域の方や子ども達がグループホームを訪問する機会も多くなっている。グループホーム主催の年末の餅つき大会には近所の方も立ち寄り大変喜んでいただいた。今後も地域の方を交えたイベントを増やしていきたいと考えている。

2. 評価結果（詳細）

（ □ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員間で話し合い、事業所独自の理念「喜んで・楽しんで・明るく快適な生活を送れるホームを目指します」をつくり上げ、普通の暮らしの中で、その人らしく自由にありのままに暮らすことを目指し、代表者・管理者・職員が日々のケアを実践している。平成18年の法改正により、地域密着型としての理念の内容が求められ、理念の内容の検討が必要である。	○	地域密着型サービスの役割をどのように果たしていくのか、地域との関係の中でどのような暮らしを実現していくのか、理念の内容の検討（修正または追加など）が求められる。
2	2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、入居者・職員共に理念を唱和している。口に出すことで改めて、理念の趣旨を深く考える契機となっている。また理念は、職員を始め、誰でも見やすいように掲示している。		
2．地域との支えあい					
3	5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くに商店街があり、入居者と共に買い物や美容室の利用・タバコを買いに行っている。また、散歩で地域の方と立ち話をするなど、気軽に話ができる関係を築いている。しかし加齢に伴い外出が困難になった入居者もおられる。そこで、職員が、地域の行事や自治会に積極的に参加するなど交流に努めている。現在では、地域の方や子供達がホームを訪問する機会も多くなっている。餅つき大会は近所の方に大変好評であった。今後も地域住民の参加行事を増やす予定である。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	代表者・管理者・職員全員が真摯に評価を受けとめ、改善に取り組んでいる。代表者は職員の質の向上・チームワークの結束など組織づくりに、管理者は職員教育・記録の充実に取り組み、職員は研修などに積極的に参加している。その結果、グループホームの職員の役割や意識が高まっている。		
5	8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の関係者の多方面に呼びかけ開催している。議事録より、事業所の紹介・活動報告・防災対策・制度などについて説明がなされ、忌憚のない意見交換を行っている。入居者の家族と地域の方々の相互理解の場となってはいるが、定期的な開催には苦慮しており、2ヶ月に1回の開催には至ってはいない。	○	運営推進会議を定期的（2ヶ月に1回）開催することが求められ、地域住民の多様な参加など運営推進会議が開催しやすい工夫が期待される。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	**○市町村との連携** 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護の入居者もおり、ケースワーカーとの連携を図っている。また事故報告書についても、適切に報告しており、状況に応じて市との連携を図っている。		
7	10	**○権利擁護に関する制度の理解と活用** 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	入居者の中には、制度が必要となる方も想定される為、日頃から、市主催の勉強会に参加したり、職員間で勉強会を実施するなど制度の理解に努めている。		
4．理念を実践するための体制					
8	14	**○家族等への報告** 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、担当者が入居者の様子を家族通信で報告すると共に、管理者も定期的に家族へ手紙を書いている。金銭管理については、一人ひとりの要望や状態に応じた対応を行っており、面会時を利用したり、家族を訪問することもある。また、必要に応じて、電話連絡を行っている。家族のアンケートより、コミュニケーションがよく取れていることがうかがえた。DVDを制作し、事業所の目的・方針・入居者の様子を伝えている。		
9	15	**○運営に関する家族等意見の反映** 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置すると共に、面会時には、家族に何でも言っていただけるように家族との関係を大切に話しやすい雰囲気づくりに努めている。家族から出された提案は、どんな些細な事でも運営に反映できるように取り組んでいる。		
10	18	**○職員の異動等による影響への配慮** 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年は、異動が1名で、離職者はいなかった。止むを得ない異動や離職については、新しい職員に十分な申し送りを行い、入居者の不安を最小限にとどめ、ケアの不備がないように支援している。		
5．人材の育成と支援					
11	19	**○人権の尊重** 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員につても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	年齢・性別に関係なく、明るく思いやりのある人を採用の条件にしている。職員に対しては、有給が取りやすく、各人の夢が実現できることを法人の方針として掲げ、時間外手当の実施や有給利用の奨励・研修機会の提供に努めている。また、半年に1回個人面談を行い、職員の率直な意見を聴き取り、その能力が活かされるように支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	機会あるごとに職員がセミナーなどを受講できるように支援している。管理者も、この1年間は、人権教育・啓発活動についての勉強を重ね理解に努めてきた。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事公課制度を取り入れ、半年に1回の個人面談を実施することで、職員の目標を明確にし、より能力が活かされるように努めている。人事公課制度の導入は、職員間に良い刺激をもたらし、相乗効果を生み、資格取得やスキルアップに取り組む職員が多くみられた。法人も積極的にバックアップを行い、遠方への（北海道、高知）研修にも参加している。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症徘徊ネットワークに加入しており、グループホーム経営者・管理者と定期的に情報交換を行っている。	○	今後は、ネットワークを活かし地域における認知症ケアの質の向上を図る、更なる取り組みに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族と共に何度かホームに（遊びに）来ていただき、本人や家族の話を十分に聴き、要望を把握に努めている。職員間で話し合い、どのような関わり方が1番安心していただけるかを検討し徐々になじめるように努めている。		
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が職員に希望を伝えようとすると職員がすぐ向き合って、その言葉に職員が反応して答えている。日々の暮らしの中で、入居者が協力してくれることに感謝の気持ちを伝え、入居者ができたことには共に喜びを共感し、自信をもって暮らしていただけるように支援している。職員は、入居者と共に過ごす中で、生活の知恵が蓄積されていることを実感しているとのことであった。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の意向は必ず本人から聴くようにしている。困難な場合は家族と相談し本人が望むであろう過ごし方を支援している。また月に1回のカンファレンスで、職員の「気づき」を出し合ったり、日々の記録やミーティング・申し送りからも情報を得るなど、本人本位の検討に努めている。更に家族に「生活歴」の記載を依頼し、一人ひとりの思いや希望を推察し、希望にそった支援の実現に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	基本情報が網羅され、生活歴の記載も詳しいフェイスシートに加え、家族に記載を依頼した「生活歴」を基に、カンファレンスを経て、介護計画を作成している。	○	入居者の生活暦を把握し、アセスメントを行い介護計画を作成しているが、ケアカンファレンスの記録に担当者・看護師・職員の意見・医師の診断・家族の意向などを書くことが求められる。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度カンファレンスを行い介護計画を作成している。入院や状況の変化があれば、その都度カンファレンスを行い介護計画を見直している。見直しの際には、見直しを行う必要があったのかをカンファレンスされ記録に残す事が求められる。そのことが職員の気づき・観察の要点などを学ぶ機会になると考えられる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望に応じて、個別の外出・外泊の送迎を行ったり、理・美容室の利用時や、かかりつけ医の受診時に同行している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じて、かかりつけ医の受診を支援している。受診時にはケアマネまたは看護師が同行している。毎週1回、協力医療機関の往診があり、入居者の健康チェックができている。往診には看護師が立ち会っている。「睡眠薬を安易に使用しない」との事業所の方針を医師に伝えている。記録についても、1週間単位で入居者のバイタルを始め、入居者の状態把握が一目瞭然でわかるよう独自の様式を使用し工夫している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化し看取りの必要が生じた場合の希望を同意書にて確認している。24時間365日の医療連携体制を構築しており、医師・看護師との支援体制が確立されている。終末期には、家族の意向にそった支援を行う対応指針を立てている。これまで重度化した入居者の支援を行った実績もあり、管理者・職員は本人や家族の意向を尊重し看取りに前向きに取り組んでいる。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングで「個人情報保護法」について説明し、周知に努めている。個人記録などはスタッフルームで保管・管理している。個々に合わせた声かけや、トイレの声かけもさりげなく行うなど、一人ひとりを尊重し羞恥心への配慮にも努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は特になく、少し遅めの起床や昼寝等、入居者一人ひとりの心身の状態や生活のリズムに合わせた支援をしている。喫煙についても、安全な場所で楽しまれていた。家族に記載を依頼した「生活歴」から、一人ひとりの思いや希望を推察し、希望にそった支援の実現に努めている。基本情報が網羅され、生活歴の記載も詳しいフェイスシートに加え、担当者が作成する「個別処遇マニュアル」の詳細な内容・適時更新される「新たな気づき」の記載があり、入居者一人ひとりのペースにそった暮らしの実現に向けて日々取り組んでいることが確認できた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日曜日は、リクエスト制にし、入居者の嗜好に対応するよう努めている。入居者の意向を把握するためにテレビ番組や広告などで食べたい物をキャッチしたり、アンケートを実施している。人により、量や温度を変えたり、パン・麺類は定期的に献立に加えるなどの工夫を行っている。食事は、職員も一緒にテーブルを囲み、献立や食材を話題にして会話がはずんでいた。入居者は、状態に応じて、下ごしらえや配膳・下膳・テーブル拭きなどを行っている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な曜日・時間を決め、週に2回（夏は週3回）、午後の入浴を実施しているが、入居者の意向やその日の体調に応じた利用ができるよう支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族から書いてもらった生活歴などをもとに、趣味や特技を把握し、なじみの事柄が活かせるように努めている。入居者も、居室よりも食堂やソファに座っておられることが多い。日常的には、懐かしい童謡などを歌ったり、手足を動かす運動・トランプなど楽しみごとの支援をしている。併せて季節ごとの行事(例:花見、雛祭、クリスマス等)、食事・ドライブを実施している。また、食事の準備・片づけ・洗濯物たたみなど、できる範囲で役割を持っていただいている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の商店街に買い物に出かけたり、天候や体調に合わせ、近くの公園を散歩するなどの支援を行っている。また職員が銀行や郵便局に行く際は、同行をお願いするなど外出機会の拡大に努めている。昨年の秋には全員でドライブに行き、国民宿舎での食事を楽しまれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、施錠することの弊害を理解しており、日中は施錠せず、「鍵をかけないケア」を実践している。安全面の配慮から、モニターにて玄関の状況が確認できるようになっており、職員は見守りや所在確認の徹底に努めている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防や防災管理業者の立会いにもと、半年に1度火災訓練を実施している。消防設備についても、定期的に点検を行い、非常事態に備えている。運営推進会議には、同建物1階の事業者(地域消防団員も在籍)に、非常時の協力依頼を行い同意を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師が(過去に)管理栄養士が作成した献立を参考に作成し、栄養バランスの確保に努めている。一人ひとりの状態やその日の体調に合わせ、量の調整や個別に玄米を炊くなどの支援を行っている。また個人別の記録用紙にバイタルや体調と併せて、食事・水分の摂取量を記録するようになっており、適切な食事・水分量の把握に努めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼リビングは換気が良く清潔感があり、落ち着いた雰囲気で、厨房での調理する音や匂いが伝わってくる。広い壁を利用して季節感のある装飾をされていた。廊下にはソファが配置され、いつでも好きな時に腰かけられるようになっている。入居者がゆったりと手すりを使って歩行訓練ができるように空間の工夫もある。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、エアコン・洗面台・クローゼットが完備されているが、その他は、入居者の希望に応じて、家具や食器など使い慣れた物を持参していただいている。家族と並んだ写真や特技を活かした入居者の作品が飾られ、個性に応じた空間づくりがなされている。		